特集❷ GIGAスクール構想 読書館スタート

いま、日本の学校教育が大きく変わろうとしています。

2019年12月に文部科学省から発表された教育改革プロジェクト『GIGAスクール構想』。小学校の児童と中学校の生徒「１人に１台ずつの端末（PC）」配備が進み、ICTの活用による「多様な子どもたちを誰１人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学び」の実践がスタートしました。とはいえ、始まったばかりのICT教育に戸惑う学校関係者の方々が多いのも事実です。銀の鈴社では、このGIGAスクール構想によるICT教育の現場で、効果的にご活用いただける読書支援サービス「読書館」をスタートいたしました。

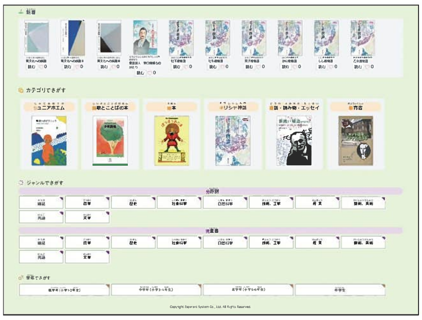
新たな時代の学校教育にぴったりな 読書館 とは？

小・中学校向けの
電子書籍 定額制「読書支援サービス」です。

読書館
サイトイメージ

幅広い端末に対応しています

- iOS（iPad、iPhone）
- Android（タブレット、スマホ）
- Windows PC
- Mac
- ChromeBook



15,000冊以上(予定)を超える良書が 読み放題

全生徒（児童）および学校関係者に読み放題の環境を提供。色々なジャンルの本に接する機会が増えることで興味の幅が拡がります。

サブスクリプションで利用コストが リーズナブル

生徒（児童）１人当たり月額単価をローコスト に！ 安心してご利用いただける価格を実現しました。

クラスの全員が 同時に同じ本を閲覧可能

電子図書館サービスとは異なり、返却待ちや同時閲覧人数の制限がないので、授業や朝読書にも活用できます。（※契約アカウント数の範囲内）

ICTを活用した オンライン教材 としても利用可能

オンライン授業の可能性が広がります。また、紙の資料づくりの煩雑さから解放され、ペーパーレス化でコストダウンも図れます。

カンタン操作で バツグンの使いやすさ

読みたい本が探しやすい！ スライド（クリック）するだけでページがめくれて読みやすさ抜群。検索や付せん機能もあるので、教師も生徒（児童）も快適な読書をサポートします。

あれって何だっけ？ いつでもどこでも 読みたい本が読める

イメージは「夜でもやってる自分専用の図書室」。場所や時間を選ばないので、朝読書でも帰宅後でも読書習慣の形成につながります。
（※ネット環境と端末が必要です）

特集❷ GIGAスクール構想 読書館スタート

まず、手はじめに
「詩を活用した授業」を実施してみませんか？

現在、文部科学省が「国語力を身につけるための国語教育の在り方」として、『聞く』『話す』『読む』『書く』を組み合わせた授業展開を求めています。これにより、国語力の中核である『考える力』『感じる力』『想像する力』『表す力』の4つの能力の向上を目指そうという狙いです。私たち銀の鈴社では、インターネット及びSNSの普及により、子どもたちが様々な場面で心通うコミュニケーションが求められる時代だからこそ、【ことば】を大切にしてもらいたいと考え、2010年から「詩を活用した授業」に取り組んでいます。

詩を活用した授業・・・とは？

作品公募型の年刊アンソロジー詩集である「子どものための少年詩集」を教材に行います。様々な詩を鑑賞すること、1冊の本が完成するまでの過程を知ることだけでなく、双方向型でかつ複合的な学びの場を提供します。

―授業の実施例―

1日目

① 今回の授業の趣旨と、感想が作者へ届くことを説明。（校正刷りの説明なども）
② 約120名分の詩作品の校正刷りを各クラスに分配し1クラスあたり40篇を読む。
③ 1篇につき1分の時間を要するとして、初日は主に読むことで終了。
④ 生徒1人につき好きな詩を3つ選出してもらい理由も考察。次回の授業に備える。
⑤「好きな詩3つ」で多く得票した詩作品の作者が後日授業に来ることを伝える。

2日目

① 4名のグループに分かれ各々が選んだ「好きな詩3つ」と選んだ理由を発表し合う。
② グループごとに「よかった詩作品」を選び発表する。
③ 学級全体で質疑応答・意見交換を行う。
④「心に響く詩」とはどのような詩なのかを考え、ワークシートに記入する。
⑤ 他の意見を受け、改めて「好きな詩3つ」を選出し作者への感想も付記する。

後日 作者が学校を訪問し、出張授業を開催。生徒が作者と直接話せる貴重な機会を創出。

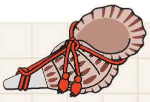
「子どものための少年詩集2021」発刊までのスケジュール（予定）

3月末	原稿締め切り
6月末	編集委員の査読 「読書館」内でゲラ※の配信
7月末	詩人たちの校正戻り
9月初旬	夏休み明けに各学校から「好きな詩3つ」の感想をGoogleフォームで送信
10月中	詩人たちの出張授業（またはオンライン授業）
11月中旬	刊　行

※ゲラ … 本になる前の校正刷り

鎌倉発信

鎌倉市教育委員会と読書館 利用で協定締結



銀の鈴社とエスペラントシステム社と鎌倉市教育委員会の3者が協定を結び、電子図書の読書支援サービス「読書館」の実証実験を開始した。鎌倉市のすべての公立小中学校の児童と生徒は、学校でも家庭でも自由に「読書館」を利用することができる。著作権の保護期間が切れた小説など約15,000冊に加えて、銀の鈴社が出版する詩集や児童書、絵本など約500冊を、パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める。鎌倉市では、150年に一度の教育改革ともいわれるGIGAスクール構想のもと、2月末にすべての児童と生徒に1台ずつのiPadを配備。新年度からの新しい教育の実践に向けて、デジタル端末の活用は喫緊の課題となっている。
鎌倉市教育委員会教育指導課の濱地優さんは「最初の導入段階として、朝読書の時間に取り入れて使っているクラスが多数あります。国語の授業でも教科書の作品に付随した作品を読んだり、図書委員会など授業以外の読書活動にも利用したり、ICTがあるからこその活動を進めてもらえれば。読書の世界を広げることで子どもの学びを広げていきたい」と語る。銀の鈴社では、作者と繋がる出版社ならではの強みを活かし、絵本作家ら著者の授業へのリモート参加なども展開したいと考えている。同課の上太一さんは「作者と直接子どもたちが繋がれて、教科書にはない交流をしながら学ぶという発展性はすごく面白い試み」と期待を寄せる。

Photo ②③④⑤：鎌倉市立西鎌倉小学校6年3組
Photo ⑥⑦：鎌倉市立御成中学校2年3組

～Society 5.0の世を　たくましく生きる子どもたちを育てるために～

●生徒の感想●

・同じ詩を選んでいても、好きな理由が全然違うので面白かった。

・普段は詩を読むことはないけれど、意外と自分の思いを代弁してくれている詩が含まれていたので楽しかった。

・グループの中で発表しただけで、「えっ!? こんなにも違うんだ」と思った。

●作者（詩人）の感想●

・読み手である子どもたちから聞ける機会は滅多にありません。生徒の皆さんのキラキラした瞳を見られたことは、何よりの創作への原動力となりました。私にとって宝石のような時間でした。

・生徒さんの感性に響く質の良い詩作になっているかどうか改めて考えるきっかけになりました。

●先生の感想●

・とても面白い取り組みができて満足している。作者と1対1で対してみたりするのも面白いかもしれない。

・あと少し時間を設けて「生徒に詩を書いてもらう」ことで、文部科学省の定める『考える力・感じる力・想像する力・表す力を得る』という目標を、今回の授業を通じて完結できると思った。

「詩を活用した授業」の思い出　― 心の脱皮 ―

この活動を通じて、個人的に印象に残っているできごとをひとつ紹介させていただきます。ある学校の授業で各個人が好きな詩を選び終え、教室内で活発に意見交換が行われている最中、突然ある男の子が机に突っ伏して泣き出したそうです。慌てて先生が事情を聞くと「僕は､○○さん（詩人）の詩が好きな理由とその詩の良さを、余すところ無く発表することができたつもりだった。それなのに、同じ詩を選んで発表した友だちの□□くんは、僕よりも○○さんの詩を深く理解していた。僕が誰よりもこの詩を好きだと思っていたのに、僕よりも深く読みとっている人がいた・・・本当に悔しい・・・」と泣きながら先生に訴えたそうです。後日、別の先生から「その子は普段は物静かな生徒で自己主張をするタイプではありません。なので、あんなに熱血漢だなんて知らなかった。あの日を境に彼は殻を破ったように、色々なことに積極的になった気がするんですよ。」と聞かされた時に、その生徒にとって、心に残る作品そして授業になったことは間違いないだろうと感じました。

― 銀の鈴社 西野大介 ―

現在、この「詩を活用した授業」は、
読書館通じてPCやタブレットを活用した
ICT形式での実施が可能となっております。

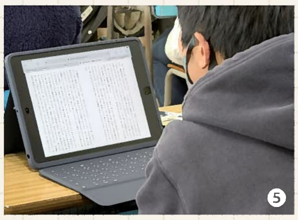
つまり読書館によるICT授業なら、
煩雑な資料づくりや集計作業に費やしていた時間と労力を、
生徒たちとの対話やより深い考察などに充てていただくことが
できるので、実践教育の可能性を拡げることにつながります。

鎌倉発信

読書館利用の現場から・・・

鎌倉市立西鎌倉小学校６年３組。毎週金曜日の始業前には15分ほどの読書時間が設けられており、子どもたちは図書室で借りた本や家庭から持参した本などを思い思いに読み進める。昨年夏にタブレットが配備されて約半年。32人の児童のうち3分の1程度がタブレットを手に「読書館」を利用していた。「タブレットはスライドするだけでページをめくれて読みやすい」と話すのは、ミステリー小説を読んでいた女子児童。『銀河鉄道の夜』を読んでいた男子児童は「宮沢賢治の本が面白くて好き。読書館には読みたい本が結構揃っている」と好評だ。担任の村松能教諭は「子どもたちが興味をもって色々な本を選んでいたのが印象的。図書室に行けない状況でも本を選び読めるいいアプリ」と手応えを感じている。同小学校では新型コロナウイルスの影響で長く図書室の利用が制限されていたこともあり、「読書館」は子どもたちに新たな読書の時間と方法を提供する一手となっているようだ。

一方、鎌倉市立御成中学校では全ての学年のクラスで毎日、朝読書の時間がある。初めて「読書館」を利用した２年３組の教室。生徒たちはすぐに読書に集中し始めた。これまでは本を持ってくるのを忘れた生徒が代わりに教科書を読んで過ごすこともあったというが、忘れ物を気にせずにすむ読書環境は利点のひとつだろう。中学生が読んでいたのはインドの神話から小説、イラストが可愛らしい絵本まで様々。生徒たちは「色々なジャンルの本に出会えるので興味の幅を広げていきたい」とか「普段は紙の本に親しんでいるがタブレットでも読みやすかった。本棚からすぐに色々な本を手に取れるような感じが良い」と初めての「読書館」利用への感想を語った。



文・写真　中村早紀

～Society 5.0の世を
たくましく生きる子どもたちを育てるために～

まだまだあります！読書館がICT授業に役立つ理由

- 生徒・児童が制作するオリジナルコンテンツの配信が可能。
（コンテンツ制作・編集のお手伝いも承ります Option）
- 学校関係者の刊行物の電子書籍化と配信が可能。
- 地域の書物の電子書籍化と配信が可能。
（風土記や歴史的芸術的な後世に受け継ぐべき地域特化のコンテンツを全国へ配信）
- 会員制で部外者の閲覧は無し。
（全生徒・児童および学校関係者のみが利用可能となるDRMコントロール）
- 学校別サイトの独自設定が可能。（特集やPOPの掲載も可能）
- 著者のオンライン授業参加や出張授業も可能。Option
- 編集者による、作文・感想文の添削指導も可能。Option

読書館 Q&A

Q1 良書ってどんな本？

A1 約15,000タイトルを、公序良俗や青少年の教育向けに、学校教育に長年携わってきたスタッフが中心となって選書しました。著名文豪作品も網羅しています。

Q2 どのような場面で使えるの？

A2 朝読書や国語の時間、休み時間はもちろんですが、各自治体の郷土資料などを閲覧可能な状態にすることで、社会の時間や総合学習など、幅広い授業での活用が可能

Q3 15,000タイトルもあって迷っちゃうけど・・・？

A3 対象年齢・ジャンルによって分類しています。オススメや特集を学校や自治体単位で編集することが可能です。（例：「夏休みオススメ読書」など）
小学校低学年の児童もお気に入りの絵本に辿り着きやすいようになっています。

Q4 インターネットを使うけどセキュリティーは大丈夫なの？

A4 本事業は株式会社エスペラントシステムとの協業により実施しております。ISO/IEC27001（ISMS）やプライバシーマークに関する認証取得をしているため、本システムを安心・安全・快適にご利用いただけます。

Esperant system

読書を通じて育む「能動的」な生活姿勢 ～考える力・想像する力・創造する力を育てる～

現在、インターネットでは動画を活用したものが主流となっていますが、動画は基本的に「受動的」であり、動画配信者側のペースになってしまいます。読書は自分のペースで進行ができ、好きな場面にいつでも戻ることも可能です。文字や行間を読むことで、考える力・想像する力・創造する力が培われます。

— 銀の鈴社　西野大介 —

お問い合わせ：**dokusyocan.jp** お問い合わせページまで